

教育データ活用セミナー(基本編)を開催しました！

満員御礼
ありがとうございました！



【シナジースクエア】
知る・わかる → 活かす！
教育データ活用セミナー 基本編
～データを味方に！学校で活かせる未来へのヒント～
令和8年6月17日(水) 15:30～17:00

こんな悩みありませんか？
☒ そもそもデータを分析ってどんなことをすればいいの？
☒ 新しい取組を始めたいので、模範を引きたい！
☒ 調査結果やアンケートを、どのようにまとめたらいかがかわからない！
☒ 学校の実践の成果や課題を、グラフ等にまとめて共有したい！

ワークショップ形式で
丁寧にサポートします！

参加者特典
質問調査の分析サポートツールをプレゼント♪

●場所 大阪市総合教育センター 6階 シナジースクエア
●対象 教育実践の成果や課題をデータに基づいて表現したい教職員
●内容 全国学力・学習状況調査の質問調査結果を例に、
○教育データの基本的な見方・考え方について学ぶ。
○教育データから読み取れる成果や課題を、グラフ等を用いて表現する。
(令和7年度全国学力・学習状況調査の質問調査の類似データを使用予定)
●持参物 職員証、筆記用具、教育情報利用PC

調査分析グループでは、令和8年6月17日(水)に大阪市総合教育センターのシナジースクエアで、「教育データ活用セミナー(基本編)」を開催しました。当日は、教育データの読み取り方や、教育データを基にした指導改善の方法について、ワークショップ形式で学び、指導改善の検討を行いました。

本号では、セミナーのポイントや受講者の声をご紹介します。

POINT
1

教育データの見取り方を知る

文部科学省は、教育データ活用のステップを右の6段階で示しています。このプロセスからも分かるように、データを活用すること自体が目的ではありません。課題の発見・解決など、ねらいを明確にしたうえで、どのようなデータを活用するかを検討することが重要です。

教育データを扱う際も、やみくもに分析するのではなく、膨大なデータの中から「何を選び、どう判断するか」を考えながら、常にねらいを意識して適切にアプローチする視点が求められます。

まず、**教育データの見取り方**を検討しました。令和7年度全国学力・学習状況調査における「朝食を毎日食べていますか」という質問への回答と、各教科の平均正答率とのクロス集計を基に、得られた結果から何が読み取れるのか、また、どのような点に留意して解釈すべきかを考えました。



「朝食を毎日食べる児童ほど平均正答率が高い」という「相関関係」が見えるデータでも、必ずしも「朝食を食べると学力が伸びる」という「因果関係」を示すとは限りません。別の要因による「疑似相関」の可能性があるため、データを扱う際は、**常に分析の目的に立ち返り、背景や他の要因を踏まえて仮説を立て、実践につなげていくことが重要です。**

教育データ活用のステップ

① 目的を定める

② 方法を決める

③ データを決める

④ システムを決める

⑤ 活用する

⑥ ネクストアクションを検討する

データを基に、指導改善の方法を考える

セミナーでの分析体験

1. 目的と方法を決める
2. ツールを使って、グラフを作成する
3. もっとあったらいいデータを考える
4. グループで交流する
5. 全体で共有する

教育データ活用のステップや見取り方を踏まえ、全国学力・学習状況調査の「教科の平均正答率」と「質問紙調査」に関する練習用データを用いて、**データの分析体験**を行いました。分析には、調査分析グループが独自に作成した、簡単な操作で集計・可視化を支援する「質問紙調査分析支援ツール」を使用しました。受講者はそれぞれ分析のねらいを定めてデータを見取り、その結果を基に指導改善の方向性を検討しました。



受講者の分析例①：読書活動への取組に向けて、「読書時間」×「国語の平均正答率」の関連を見たい！

受講者の分析例②：算数科の校内研究の成果を示すために、「算数に関する質問回答状況」×「算数の平均正答率」を基に研究協議を行いたい！

セミナー受講者の声

セミナーで得た知識や気づきなどの学びを今後、自分自身や子どもたち、学校全体などに活かすことができますか。

どちらかといえば
できないと思う
1人

できると思う
4人

どちらかといえば
できると思う
10人

受講者の感想より

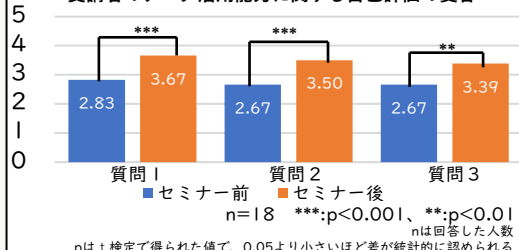
今日いただいたエクセルデータを活用して、何かを示したいときに使えるようなデータがないかを模索したいです。

自身の授業力改善をデータという心強いバックアップを基に行うことができそうです。今回のデータを組み合わせることで年間計画作成や活動のねらいなどを設定しやすくなったと思いました。

本校の研究テーマに合わせて学力調査のアンケートを分析して先生方にお伝えしたいと思いました。

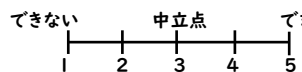
※事後アンケートおよび、セミナー前後で実施した振り返りシートの結果を基に作成

受講者のデータ活用能力に関する自己評価の変容



【質問項目】

- 質問1 データに基づいて子どもを理解することの意義を説明すること
質問2 子どもの状態をデータに基づいて捉える方法を説明すること
質問3 データに基づいて子どもを支援する方法を計画すること



事後アンケートでは、「セミナーで得た知識や気づきなどの学びを今後、自分自身や子どもたち、学校全体などに活かすことができますか」に対して、回答した受講者の約94%が肯定的な回答^{※1}をしていました。受講者のコメントからも、**教育データを授業改善にどのように生かせるのかについて、具体的なイメージを持てるようになった様子**が伺えました。

セミナー前後における受講者自身のデータ活用能力に関する自己評価の変化について検定^{※2}を行った結果、**質問1～3のすべての項目で有意な向上**があり、統計的にも有意差が見られました。

※1 「できると思う」または「どちらかといえばできると思う」を選んでいるということ

※2 回答は5件法で収集し、t検定を用いた



便利ツールのご紹介

SKIPポータル書庫には「t検定さん」「クロス集計さん」「カイニ乗検定さん」など、分析に便利なツールを格納しています。各校で様々な分析を行う際にご活用ください。

なお、今回のセミナーで用いた「質問紙調査分析支援ツール」についても、今後共有する予定です。全国学力・学習状況調査の結果を本校でも分析できるよう、現在準備を進めています。

SKIPポータル書庫に、便利ツールを入れてあります

教育委員会>総合教育センター>教育振興担当>調査分析グループ>分析ツール の中に色々あります。



「調査分析」で検索！



編集後記

今回のセミナーでは、教育データ活用の目的や見取り方、そしてツールを用いた分析を体験していただきました。教育データ活用はそれ自体が目的ではなく、学校が抱える課題を捉え、よりよい教育実践につなげるための「味方」です。本セミナーのサブタイトルである「データを味方に！学校で活かせる未来へのヒント」の通り、各校における実践が、教育データを根拠としたより確かなものとなることを願っています。今後も研修や情報提供等を通して、各校の教育データの活用を支援してまいります。